

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成22年9月9日

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3990800033		
法人名	社会福祉法人 清和会		
事業所名	グループホーム あんきな家		
所在地	〒787-0336 高知県土佐清水市加久見1464-279		
自己評価作成日	平成22年6月25日	評価結果 市町村受理日	平成22年9月28日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、市の中心街から少し離れた小学校の建物跡を改修した2階にあります。前には太平洋が見え、後ろは山に囲まれた自然に恵まれた立地条件のなか、アサリを採り食卓にあげたり、山菜料理やお菓子など加工食品を法人の複合施設内で販売したり、障害者のいる家庭に配るなどしている。「利用者の良い状態とは、生き生きとしていること」という考えのもと、日常生活のなかで、食事作りや洗濯、掃除等の作業を職員と一緒にしながら、利用者の希望に沿った楽しみを持てるように、外出行事やドライブ、外食等も積極的に取り入れています。また、併設のデイサービスセンターや小規模多機能型居宅介護事業所等との合同行事を通じて、利用者同士の交流や、地域の方々参加するイベントなどを通じて、地域に溶け込んだ事業所づくりをしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3990800033&amp;SCD=320">http://kaigo.pippikochi.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=3990800033&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成22年7月14日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所では、利用者のこれまでの生活リズムを大切にされた支援に取り組み、職員同士が仲良く、楽しく勤める中にも、けじめをつけて利用者 と接することで、利用者を人生の先輩として敬うとともに、常に利用者本位を意識し、安心した暮らしの支援に取り組んでいる。また、運動療法により利用者の機能維持に取り組み、利用者の表情も生き生きとしている。小学校跡を利用した法人の複合施設として、グループホームの外に高齢者賃貸住宅、デイサービスセンター、小規模多機能型居宅介護事業所が併設され、あったかふれあい事業の実施や地域の避難場所として指定を受けている。地域のイベントが敷地内で開催されたり、事業所の合同行事に地域住民の参加があるなど、今後も地域に密着した事業所の運営が期待される。

## 自己評価および外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	<b>○理念の共有と実践</b> 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「仲良く、楽しく、けじめのある仕事」を基本に職員同士が楽しく仲良く職務を行うことで、利用者も生き生きと楽しく、安全に過ごすことができるよう、事業所全体の和を大切にしたケアに取り組んでいる。	法人理念に沿って、利用者本位に和やかに接する事業所独自の理念があり、月1回の全体会で理念を振り返り職員間で共有している。人として当たり前のことを当たり前として暮らしていけるよう、日々の支援を心がけている。	
2	(2)	<b>○事業所と地域とのつきあい</b> 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年開催されている地域をあげての交流会や各種のイベント等に参加している。事業所の季節行事には地域の方々も参加いただいている。今年度からは、自分達で作ったものを近隣の障害者の家庭に届ける活動を計画している。	町内会に加入し、地域の一斉清掃に参加したり、地域のイベントや事業所の行事を通じて、地域住民と交流している。また、利用者の馴染みの方から野菜等のお裾分けがあるなど、日常的に交流している。	
3		<b>○事業所の力を活かした地域貢献</b> 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民に事業所の説明会を随時行い、介護相談を行うなど、認知症の理解が深まるよう取り組んでいる。		
4	(3)	<b>○運営推進会議を活かした取り組み</b> 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月毎に開催し、事業所の行事や取り組みなどを報告しながら、助言をいただき、改善事項があれば改善し、実施状況を報告している。また、話し合った内容は、ホーム便り等を通して家族にも報告している。	併設の小規模多機能型事業所と合同で開催し、利用者も出席している。事業所からの報告等に応じて参加委員から意見等が出され、運営に活かしている。	運営推進会議で出された意見等については、その概要を記録し、後日、意見交換の経過の確認や第三者がみて内容が理解できるよう、会議録として整備しておくことを期待したい。
5	(4)	<b>○市町村との連携</b> 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者に最善の状態に対応できるように、必要時には、市役所の方にも助言をいただきながら進めている。	利用者のケアや事業の運営について、何でも気軽に相談できる関係ができています。また、法人としてあったかふれあい事業の実施や、複合型施設としての地域貢献など、助言や協力を得ている。	
6	(5)	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止の講習会に参加したり、勉強の機会を持ち、事業所として、利用者が束縛感を感じる全ての身体拘束をしない方針に沿ってケアに当たっている。身体拘束をしないリスクについてはその都度家族に説明し理解をいただいている。	身体拘束に関する研修等を通じて、職員に周知し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。居室や玄関に鍵をかけず、帰宅願望のある利用者には言葉がけの工夫や、本人が納得いくまで一緒に外出したり、併設事業所等の協力も得ながら見守り支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者、職員は虐待防止の研修に参加し、研修内容の報告を受けて職員間で共有し、虐待防止に努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者が研修を受けている。状況に応じて職員間で話し合いの機会を持ち、利用者の権利を守る支援に取り組んでいきたいと考えている。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約やその解除に当たっては、ご利用者、ご家族に納得いただくまで管理者が十分な説明を行なったうえで署名していただくようにしている。		
10	(6)	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情や不満、疑問点があれば、その都度、家族に納得いただけるように改善や対処に当たっている。また、意見箱を設置し、家族からの忌憚のないご意見を聞けるようにしている。家族会は2カ月に1回開催し、意見を伺っている。	家族会は行事に合わせて2カ月毎に行っているが、参加者は少ない。ぶどう狩りなど、家族が楽しく集まれる機会を持つよう検討している。家族からの苦情等についての的確に改善や対処がなされており、記録もされている。	家族会の折には、家族同士での話し合いの場を設け、忌憚のない意見等を出してもらい易い取り組みを期待したい。
11	(7)	<b>○運営に関する職員意見の反映</b> 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、職員の全体会を開催し、また、必要時には随時会を開催して、事業の運営についても意見交換の場を持ち、必要な事項については改善を図るようにしている。	毎月の定例の職員会や臨時の職員会の機会に職員から運営等について意見を聞いている。日々の申し送りの時間も含め、サービス内容や気づいたことをその都度話し合い、運営に反映させている。	
12		<b>○就業環境の整備</b> 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況等について定期的に把握し、職員による自己診断も行い、職務意欲の向上に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<b>○職員を育てる取り組み</b> 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	自己啓発のため研修情報をファイルして提示し、参加希望に応じて勤務の変更を行うなど、できるだけ参加を促している。		
14		<b>○同業者との交流を通じた向上</b> 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の事業所と意見交換等を行う機会を持ち、サービスの向上につなげている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		<b>○初期に築く本人との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	情報収集や傾聴、観察により早期にご利用者とスタッフの信頼関係を構築し、落ち着いて穏やかに過ごしていただけるように努めている。		
16		<b>○初期に築く家族等との信頼関係</b> サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前のご家族の意向、要望を聞き、入居後もご家族との信頼関係を築き、協働して支援していくように努めている。		
17		<b>○初期対応の見極めと支援</b> サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の状況や家族の意向等を踏まえ、必要最低限のサービスや、今後必要と思われるサービスについて意見交換を行っている。		
18		<b>○本人と共に過ごし支えあう関係</b> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、利用者の様子を敏感に察知するよう努めながら、職員も日常生活全般を共に行う者同士の関係を築き支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話連絡や面会時に情報交換を行い、本人の要望や暮らしぶりなど共有するとともに、家族の協力を得ながら支援している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出身地域の行事等を把握し、参加にむけて積極的に支援している。また、馴染みの知人や縁故関係の方には積極的に面会をお願いし、関係の継続を図ったり、外出により知人と会う機会を大切にしている。	利用者の希望を聞き、思い出のある場所に出かけたり、友人、知人の訪問を受けたり、外出先で交流するなどしている。また、家族の協力を得て馴染みの美容院へ出かけるなど、これまでの関係が継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、利用者間の会話の架け橋になり、孤立することなく過ごせるように対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、電話連絡や手紙などにより事業所の近況報告などを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスや職員会などで情報を共有し、できるだけ利用者の思いや希望に沿った日々の暮らしができるように努めている。	利用者と共に過ごすことで思いや意向の把握に努めている。意思疎通の困難な利用者は家族や知人からの情報収集に努め、表情をみながら意向を推し測り、本人本位で支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族との話し合いや、その他の関係先からの情報により、昔から本人が日課にしていることや、仕事、趣味など把握し、ケアにつなげている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		<b>○暮らしの現状の把握</b> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務日誌、引継ぎノートを活用して把握と情報の共有に努めている。その日にあった様子などもタイムリーに記載し、把握に努めている。		
26	(10)	<b>○チームでつくる介護計画とモニタリング</b> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望と家族の意向を重視し、カンファレンスや担当者会で意見交換し、介護計画に反映させている。	利用者、家族の意見も聞き、担当制による職員のアセスメントやモニタリングを踏まえ、カンファレンスを行っている。介護計画は利用者の状態により個別に期間設定しており、6カ月を基本に見直しているが、転倒や状態に変化があった時はその都度見直し、家族の同意を得ている。	
27		<b>○個別の記録と実践への反映</b> 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、個別記録を整備し、職員間で情報を共有するとともに、意見交換を行いながら日々の実践や介護計画に活かしている。		
28		<b>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</b> 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者、家族の個々のニーズには、必要性があると判断した場合は即座に対応するようにしている。		
29		<b>○地域資源との協働</b> 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本人が安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう、地域の自治体の行事などには積極的に参加するようにしている。		
30	(11)	<b>○かかりつけ医の受診支援</b> 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の家族が受診に同伴し、主治医との話し合いにも積極的に参加している。事業所のみで対応した利用者については、受診結果や主治医との話し合いを報告したり、状況に応じて受診前に事前に連絡するなど、適切な医療を受けられるよう支援している。	利用者、家族の希望するかかりつけ医に受診できるよう支援している。通院介助は事業所が対応しているが、家族が同行している場合もある。受診結果については、家族に連絡するとともに、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、グループホームには配置していないが、病院とは密に連絡を取り、必要であれば直に受診するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、退院後も医療機関と常に連絡をとり、利用者の状態の把握に努め、安心して治療できるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについてのマニュアルや計画はまだ作成していない。利用者の状態変化があった場合は、早期に家族に連絡し、情報の共有を行っている。状態変化後、その都度話し合い、できるだけ本人や家族の意向に沿えるようにしている。	重度化の指針については作成していないが、利用者の状態の変化等に応じて、家族と話し合い、意向に沿えるよう対応している。	重度化等の対応指針を作成することは、現在、事業所で対応している取り組みを職員間で共通認識を図ったり、利用者、家族等との信頼関係を高めることにつながるものであり、その取り組みを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員が普通救命講習を修了し、急変時には、管理者の指導のもと即対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災訓練、避難訓練と3か月に1回の自主訓練を行っている。運営推進会議を通じて地域での合同実施や、青年団の参加の方向で話し合いを行っている。	定期の避難訓練を併設事業所と合同で実施するほか、3か月毎に事業所単位で自主防災訓練を行っている。地域住民の参加について運営推進会議日を通じて呼びかけるなどしている。	災害時には地域住民の協力が欠かせないものであり、学校跡地を利用している法人の複合施設が地域の避難場所の指定を受けるなど、環境が整っており、事業所からも地域住民への参加、協力を呼びかける取り組みを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員一人ひとりが常に気をつけ、利用者に敬意を払う対応を心がけている。プライバシー保護のため、訪室時はノックをして意向を確認して入室するように気をつけている。	日常のケアのなかで、利用者の誇りやプライバシーを損なわない対応を職員に徹底し、一人ひとりの人格の尊重を心がけ、特に、言葉かけには気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、さりげなく希望や要望を把握するように努め、利用者がその人らしい生活が送られるように自己決定できる場面づくりを行うなど支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活リズムを大切に、体調や気分に応じた環境を整え、声かけのタイミングを工夫するなど、その人らしく過ごせるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の行きつけの理髪店に行ったり、訪問理容により整容している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の食べたい物を聞いたり、嗜好や好物を把握し、食事メニューに取り入れて一緒に調理をしている。	利用者の希望や嗜好を把握して献立を作り、利用者の能力に応じて、調理の下ごしらえや洗い物など、食事の準備、片付けを職員と一緒にしている。職員は利用者と同じ食事ではないが、利用者と同じテーブルで会話をしながら食べるなど、楽しい雰囲気づくりに配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量と食事量の把握している。水分や食事の形態についても、利用者の摂取状況を考慮して必要量を確保するよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけして口腔ケアを行っている。状況に応じて介助しながら支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	できるだけオムツの使用はせず、基本的に日中はトイレで排泄するようにしている。利用者毎に排泄状況を確認しながら、自立の方、見守りの方、介助の方とそれぞれに応じて、できるだけ快適に過ごしていただけるよう支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、日中はトイレで排泄するように声かけ誘導をしている。また、利用者の状況に応じて日中は紙パンツや尿取りパッドも使用するなど、排泄の自立支援に取り組んでいる。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		<b>○便秘の予防と対応</b> 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	必要に応じて、水分量や食べもの工夫や運動など、主治医の指導を得ながら支援している。		
45	(17)	<b>○入浴を楽しむことができる支援</b> 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	当日の体調を考慮しながら、本人の希望を聞き毎日入浴を行っている	利用者の希望に沿って、毎日入浴できるよう支援している。入浴を拒む場合も、生活の習慣やリズムを把握して声かけするなど工夫することで、入浴を楽しんでいる。	
46		<b>○安眠や休息の支援</b> 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1日を通して、本人の希望や体調面を考慮しながら空調管理を行い、本人が好きな時に横になったり、就寝できるよう支援している。		
47		<b>○服薬支援</b> 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の使用している薬の理解や、服薬変更があった場合は、業務日誌や引継ぎノートにより、職員が確認できるようにしている。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑作り、洗濯・掃除・調理等、利用者の得手、不得手を把握し、日々の生活の中で、好きなことや、楽しみごとの場面づくりに取り組んでいる。		
49	(18)	<b>○日常的な外出支援</b> 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気が良いので外へ出かけていきたい等、希望があれば実施するようにしている。行きたい所を聞いたり、提示することで利用者の意向を反映させた外出を行なうようにしている。	利用者は事業所周辺の自然を満喫しながら日常的に散歩に行ったり、買い物にもよく出かけている。利用者の希望に応じて市内の景勝地や市外の道の駅などへ車で出かけている。また、季節折々の花見に行くなど、車イスの利用者も同様に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b> 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金は管理者が管理しているが、家族の了解のもと利用者が所持している場合もある。利用者自身が支払いをする時は、職員が見守り支援をしている。		
51		<b>○電話や手紙の支援</b> 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ家族に電話できるよう随時対応している。		
52	(19)	<b>○居心地のよい共用空間づくり</b> 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎月の行事カレンダーや季節毎の壁飾りを利用者と職員と一緒に作成したり、外出の際に摘んできた花を活けるなど、季節感を採り入れている。また、毎日の空調管理に配慮し、快適に過ごせる環境づくりに配慮している。	畳敷きやソファなどが配置され、利用者一人ひとりが思い思いの場所でのんびり過ごすことができるようにしている。また、玄関や台所の花瓶に庭先や野山に咲いている季節の花を活けたり、利用者と職員が作ったカレンダーや壁飾りが、家庭的な和やかな雰囲気醸し出している。	
53		<b>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</b> 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの畳コーナーやソファで利用者がそれぞれに自分の空間を作り、日常生活音を聞きながら独りで過ごせるようにしている。		
54	(20)	<b>○居心地よく過ごせる居室の配慮</b> 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来るだけ使っていたものを持ってきていただき、自宅に居た雰囲気をそのまま事業所の生活につなげられるようにしている。また、利用者の意向でベッドの位置を動かすなど、快適に過ごしてもらうように配慮している。	自宅で使い慣れた馴染みの家具やテレビなどを置き、また、家族の写真や手作りカレンダー等を飾るなど、利用者一人ひとりの個性を大切にした居室となっている。	
55		<b>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</b> 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせ、専門の方に助言をいただきながら介護・福祉用具を購入するようにしている。廊下などには既存の手すりのほか、状況に応じて手すりを追加整備している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				